

第37回 法人会全国青年の集い山形大会の報告

令和5年11月10日(金)に第37回法人会全国青年の集い山形大会が山形市で開催されました。1800名を超える青年部会員が現地に集結し、当会からは柚友部会長が参加しました。

記念講演では、ヤマガタデザイン株式会社代表取締役山中大介氏が、「自らがリスクを取って挑戦する。だからこそ価値がある。」と題して講演されました。圧倒的な当事者意識で地方の課題を解決すること、そしてそのための事業を生み出すことが重要であること、また地方の課題は全国同じで人口減少・少子高齢化・若年層流出・経済縮小などであるが、行政依存から脱却し民間主導で解決策を考えることが重要であること、また観光面では、地方の観光戦略としては、いかにリピーターを取り込むかが重要であること、また豊かな人材と教育の充実が未来に不可欠とし講演を締め括りました。

大会式典は、岡崎大会会長の開会の辞に始まり、主催者である全法連青年部会連絡協議会平良会長、全法連小林会長の挨拶に続き、来賓の国税庁課税部長、山形県知事代理、山形市長から祝辞を頂きました。

その後、前日に行われた租税教育活動プレゼンテーション、そして健康経営大賞の審査結果発表があり、租税教育活動部門で最優秀賞を受賞した福岡県連佐世保法人会青年部会、健康経営大賞部門では沖縄県連北那覇法人会青年部会、岡山県連岡山西法人会会員のネットヨタ山陽株式会社の事例発表がそれぞれ行われました。

特に、租税教育活動事例では、佐世保法人会が長崎国際大学のゼミ生と「地域がつながる 未来へつながる」と題した新たな租税教室を創出。大学生に青年部会役員が税知識を教え、その知識を基に学生がゼミで税に関する研究を行い、学生たちが創造した租税教室を実施。法人会は将来的な租税教室の担い手創出、大学生は広範かつ正しい税知識の習得、中学生は世代の近い大学生からの授業で親近感や共感を得られるといった様々な効果など、地域・世代を繋ぐ租税教育体系の構築ができたと発表しました。

式典の最後は、山形県を代表する歴史的偉人「上杉鷹山公」が残した「為せば成る」の精神を胸に、武田実行委員長の山形大会宣言で締めくくられました。

今回の青年の集いに参加して、法人会青年部会の活動の柱である租税教育活動の更なる充実と現在もう1本の柱となるべく展開している健康経営の情宣と推進をしていくことが、法人会青年部会、ひいては徳島県全体の活性化につながるの思いを新たにしました。